



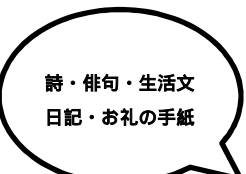
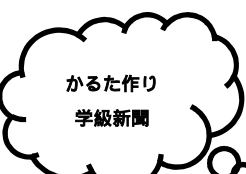
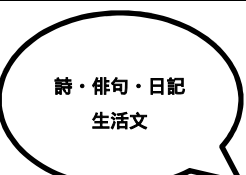













	内容項目：書くこと	具体的な活動例			カリキュラム改善の視点		
		題材設定	記述	交流			
小学校 第1学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>経験したことや想像したことなどから、書くことを決める。</li> <li>語と語や文と文のつながりに注意し、文や文章を書く。</li> <li>書いたものを読み合い、よいところを見つけて、感想を伝え合う。</li> </ul>	一人一人の気持ちや経験を大切に、楽しんで書ける題材を選ぶ。	 <p>絵日記・観察文</p>	<p>「～は、～です。」など、主語・述語の整った文を意識する。前後の語句や文のつながりを考える。</p>	 <p>手紙・生活文</p>	<p>友達と互いに書いたものを伝え合い、よいところを見つける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>普段使っている言葉を大切に、色々な機会を捉えて、楽しく絵日記や観察文に表現できるようにする。</li> <li>人物や遊び、施設、本、絵など、日常生活の中の紹介したいことを簡単にメモにしたり文章にしたりする。</li> <li>読んでもらう相手がいることを意識するために、ペアや生活班などで互いに書いたものを読み合う場を設定する。</li> </ul>
		メモをとるなどして、気持ちや経験を大切にしながら、楽しんで書くようにする。	 <p>絵日記・観察文 生活文・報告文</p>	<p>「始め～中～終わり」などの構成を意識できるようにし、語と語及び文と文との続き方を考えて記述する。</p>	 <p>手紙・生活文 説明文</p>	<p>互いに書いたものを読み合い、よさを伝えたり、感想を受けて振り返ったりする。</p>	
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>関心のあることから、書くことを決める。</li> <li>相手や目的に応じて、書こうとする中心を明確にする。</li> <li>書いたものを発表し合い、書き手のよさに気づき意見を述べ合う。</li> </ul>	実際に見聞きしたり、行動したり、経験したりしたことの中から自分の思いを伝える。	 <p>詩・俳句・生活文 日記・お礼の手紙</p>	<p>自分の考えや、書こうとする中心を明確にして、簡単な文章構成を考える。 伝統的言語文化の良さを知る。</p>	 <p>かた作り 学級新聞</p>	<p>書いたものを読んだり、音読したりして発表し合い、文の良さについて意見を述べ合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習の中で気づいたことや生活の中で感動したことの中から、自分の一番伝えたい思いを日記や新聞作りなどで日常的に表現できるようにする。</li> <li>段落の組み立てを考えたり、キーワードを選んだりするためにメモを活用する。</li> <li>小グループでの話し合いの場を設定し、お互いの文のよさを伝え合うためにワークシートを工夫する。</li> </ul>
		関心のあることから書くことを決め、相手や目的に応じて書く上で必要な事柄を調べる。	 <p>詩・俳句・日記 生活文</p>	<p>文章全体における段落役割を理解し、自分の考えが明確になるように段落相互の関係などに注意し、文章を構成する。</p>	 <p>新聞作り 意見文</p>	<p>書いたものを発表し合い、文章の良いところや間違いを知り、よりよい表現に書き直すこと。</p>	
第5学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>考えたことなどから書くことを決める。</li> <li>目的や意図に応じて簡単に書いたり、詳しく書いたりする。</li> <li>書いたものを発表し合い、互いの表現の仕方に着目して助言し合うこと。</li> </ul>	生活の中で感じたり、考えたりしたことなどから書くことを選択する。	 <p>報告書 提案書 物語</p>	<p>目的や意図に応じて簡単に書いたり、詳しく書いたりする。</p>	 <p>報告書 提案書 詩</p>	<p>文章の良さを感じとりながら読み合う。表現の仕方をよりよくなるため助言し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>目的や事柄に応じて、取材の内容や方法を考え、幅広く情報を集めることができるようにする。</li> <li>取材した事柄を整理し、文章を論理的に組み立てるためにワークシートを活用する。</li> </ul>
		考えたことなどから書くことを決める。	 <p>短歌 俳句 随筆</p>	<p>事実、感想、意見などを区別して、記述の仕方を考える。</p>	 <p>推薦書 宣伝文 ポスター</p>	<p>互いが書き上げた文章のよさを感じ取り、助言し合う。</p>	
中学校 第1学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>目的や意図に応じて日常生活に関わることについて、構成を考えた確に書く。</li> <li>文章を書いて互いに読み合い、考えをまとめる。</li> <li>目的や意図に応じて社会生活に関わることについて、構成を工夫してわかりやすく書く。</li> <li>文章を書いて互いに読み合い、考えを広げる。</li> <li>目的や意図に応じて社会生活に関わることについて、論理の展開を工夫して書く。</li> <li>文章を書いて互いに読み合い考えを深める。</li> </ul>	日常生活から課題を決め材料を集める。	 <p>体験文 鑑賞文</p>	<p>自分の考えや気持ちを根拠を明確にして書く。</p>	 <p>学校紹介 リーフレット</p>	<p>題材のとらえ方、材料の用い方、根拠の明確さについて意見を述べ合い自分の表現を参考にする</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中学生にとっての社会生活の課題の設定は、他教科とのつながりや、実生活からの延長上から模索する。</li> <li>日常生活でふれる多様な文章の形態にふれる機会を増やし、「型」をある程度与えるところから出発し、自分の表現に活かす。</li> <li>読み手を意識し、自分の考えや主張が明確に伝わるように表現を工夫する。</li> <li>読み手の「読みたい」という意欲を喚起できるような表現の工夫をする。</li> <li>観点を明確にしながら交流し、自分の表現や考えに結びつける。</li> </ul>
		社会生活から課題を決め多様な方法で材料を集めて書く。	 <p>意見文</p>	<p>効果的に伝えるように、説明や具体例を加えたり描写を工夫して書く。</p>	 <p>読書感想文</p>	<p>文章の構成や材料の活用の仕方について意見を述べたり助言をして自分の考えを広げる。</p>	
		社会生活から課題を決め、取材を通し考えを深める。	 <p>主張文 友情論</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>論理の展開を工夫し、資料を適切に引用して説得力のある文章を書く。</li> <li>文章全体を整える。</li> </ul>	 <p>詩歌の紹介文</p>	<p>論理の展開・表現の仕方について評価し、自分の表現に役立てると共にもの見方や考え方を深めること。</p>	

課題改善カリキュラム(算数・数学分科)

石神井小・上石神井小・石神井中

分科会のテーマ:問題場面に提示された数を、様々な表現方法を活用しながら数の関係をとらえ、正しく立式できる児童・生徒を育成する。

学習期		内容		児童・生徒に身に付けさせたい能力						カリキュラム改善の視点		
				A:数と計算(小) A:数と式(中)			D:数量関係(小)					
小学校	第1学年	期	・問題場면을、算数ブロックに置き換えて数として抽象化し、ブロックの操作を通して場面を理解させる。	・問題場면을、 や を用いて絵にかくことを通して抽象化し、立式につなげる。							問題場면을いろいろな方法で表して考えることのよさを実感する。 算数ブロック おはじき 絵 ドット図 テープ図	
			あわせて いくつ ふえると いくつ のこりは いくつ ちがいは いくつ 10よりおおきいかず	ずをつかってかんがえよう								
			【指導の工夫】問題場면을具体物を操作することや絵や図に表すことが、立式につながることを実感させる。									
	第2学年	・立式した数を位ごとに算数ブロックで表す。	・問題場면을おはじきや図で表し、立式につなげる。		・問題場면을、ドットやテープの図に置き換えて、2数の関係性をとらえる。							
		ひき算のひっ算	かけ算		たし算とひき算							
		【指導の工夫】問題場면을ドット図やテープ図に表す方法を身に付け、問題解決に役立てられるようにする。										
	第3学年	・問題場면을おはじきを操作することを通して把握する。	・ある量の何倍かにあたる数を、テープ図を用いて求める。		・2つの量の重なる部分に着目して解く問題を、テープ図を用いて理解する。	・未知数があっても、 を用いることにより、文脈通りに式に表せることやその求め方を理解する。						問題場面について、図などを用いて関係性を見出したり、それらを活用して立式する経験を積む。 テープ図 数直線図 言葉の式
		わり算 あまりのあるわり算	かけ算の筆算のしかたを考えよう		重なりに目をつけて	を使った式に表そう						
		【指導の工夫】問題場면을テープ図や数直線に表す方法を身に付け、問題解決に役立てられるようにする。										
	第4学年	問題場면을数直線図や言葉の式に表すことを、立式の根拠とする。			分配や移動をともなう2量の差に着目し、問題構造を図に表す。	単位と割合という2つの側面から関係を図に表し、それをもとにして立式する。	2量の共通部分に着目し、問題構造を図に表し、それをもとにして立式する。					
		わり算のしかたを考えよう			ちがいに目をつけて	わり算のしかたを考えよう	共通部分に目をつけて					
		【指導の工夫】問題場면을数直線図や言葉の式を活用して立式するとともに、問題場面の構造を読み取り、数の関係を図に表して、問題解決に役立てられるようにする。										

中学校	第5学年	期	数値を数直線上に表すことで、小数であっても2量の関係をとらえられること理解する。	整数のときに成り立った計算のきまりは、小数の場合にも成り立つことを確認させた上で、そのよさを実感する。		倍を表す数が純小数になる場合があり、その際は比較量が基準量よりも小さくなることを理解する際に、テープ図や数直線図を活用する。	異種の2量の割合としてとらえられる数量について、数直線図や言葉の式を活用して問題解決にあたる。	割合を用いて他方の量を求める際、数直線図に表すことで、関係性が見やすくなることを理解して問題解決にあたる。	今までに学習してきたことを活用しながら、さまざまな方法を用いて問題解決にあたるとともに、多様な表現方法を身に付ける。  数直線図 テープ図 面積図  言葉の式	
			小数のかけ算 小数のわり算	小数のかけ算 小数のわり算		小数のかけ算	単位量あたりの大きさ	百分率とグラフ		
			【指導の工夫】問題場面を数直線図や面積図、言葉の式などを活用して立式するとともに、問題場面の構造を読み取り、数の関係を図に表して、問題解決に役立てられる							
			問題場面を面積図などに表すことによって、分数をかける意味や分数で割る意味を理解する。	整数のときに成り立った計算のきまりは、分数の場合にも成り立つことを確認させた上で、そのよさを実感する。		倍を表す数が分数になる場合があり、その際は比較量が基準量よりも小さくなることを理解する際に、テープ図や数直線図を活用する。				
			分数のかけ算 分数のわり算	分数のかけ算 分数のわり算		分数のわり算				
			【指導の工夫】問題場面を数直線図や面積図、言葉の式などを活用して立式するとともに、問題場面の構造を読み取り、数の関係を図に表して、問題解決に役立てられる							
	第1学年	期	問題文を絵やテープ図、数直線に表すことで、文字を使用した式を立てる根拠とさせる。	問題文を図やイラスト、表などに表したり、言葉の式に表したりしてから等式を作り、方程式を解く。						
			文字式	方程式						
			【指導の工夫】小学校算数での文字の使用を想起させながら、学習に取り組みさせる。問題文を図やイラストに表すことが、場面の把握に有用であることを実感できるように							
	第2学年	期	問題文を図やイラスト、表などに表したり、言葉の式に表したりしてから等式を作り、連立方程式を解く。						今までに学習してきたことを生かして、自ら問題解決にあたる。	
			連立方程式							
			【指導の工夫】問題場面の把握のために、図やイラスト、表などで表したり、言葉の式に表したりすることが有用であることを実感できるようにする。							
第3学年	期	問題文を図やイラスト、表などに表したり、言葉の式に表したりしてから等式を作り、二次方程式を解く。								
		二次方程式								
【指導の工夫】問題場面の把握のために、図やイラスト、表などで表したり、言葉の式に表したりすることが有用であることを実感できるようにする。										

分科会のテーマ:「マット運動」における系統性を踏まえた、学習内容定着のための工夫

学習期		内容	児童・生徒に身に付けさせたい能力			カリキュラム改善の視点
			技能 ( は基本的な回転技や倒立技)	態度	思考・判断	
小学校	第1学年	期	<p>【マットを使った運動遊び】 いろいろな方向への転がり、手で支えての体の保持や回転などができる。</p> <p>ゆりかご 前転がり 後転がり かえるの足打ち</p>	<p>マットを使った運動遊びに進んで取り組むとともに、 順番 や決まりを守り仲良く運動する。</p>	<p>マットを使った運動遊びの行い方を知る。 マットを使って楽しく遊ぶことができる遊び方を選ぶ。</p>	<p>「楽しい体育」を小中一貫して行っていく。 低学年では基礎感覚つくりを補助運動として多く取り入れていく。 逆さ感覚...かえる倒立、かえるの足打ち、手押し車、うさぎとび 回転感覚...でんぐりがえし、鉄棒での前廻り バランス感覚...ゴム跳び、ケンパー遊び 高さ感覚...肋木(ジャングルジム)の登りおり 柔軟性...ブリッジ、エビぞり、開脚姿勢での前屈 腕支持感覚...手押し車、上り棒、馬跳び、動物歩き リズム感覚...スキップ、ギャロップ、サイドステップ、スキップ 補助運動 学習カードの共有 中学校から (ねこちゃん体操など) 技能面の指導の助言</p>
	第2学年		<p>【指導の工夫】 楽しそう・やってみたい・できそうと児童が思う「場の設定」を行う。 → 「どうぶつらんど」 遊びの中からコツとなる動きのポイントを取り上げ、学級全体で共有する。 場の工夫 ~楽しく活動できるように~</p>			
	第3学年		<p>基本的な回転技や倒立技ができるようにする。発展技や組み合わせ技に挑戦できる。(発展技:大きな前転・開脚前転/後転・補助倒立・頭倒立・ブリッジ・側方倒立回転)</p> <p>前転 後転 腕立て横跳び越し 壁倒立</p>	<p>教え合い励まし合い助け合う。</p>	<p>技のポイントを知り自分にあった課題、練習の場を選ぶ。</p>	
	第4学年		<p>【指導の工夫】 関わり教え合う必然性を作る。 → 単元の最後に「グループ発表会」 技のポイントのわかる掲示物や学習カードを活用する。 場の工夫 ~段階的に習得できる運動の場を作る~</p>			
	第5学年		<p>基本的な回転技や倒立技ができる。発展技や組み合わせ技に挑戦できる。(発展技:倒立前転・跳び前転・しんしつ)</p> <p>大きな前転 開脚後転 側方倒立回</p>	<p>教え合い励まし合い助け合う。</p>	<p>自分にあった課題をもち、練習方法や活動を工夫する。</p>	
	第6学年		<p>【指導の工夫】 関わり教え合う必然性を作る。 → 単元の最後に「グループ発表会」 技のポイントのわかる掲示物や学習カードを活用する。 場の工夫 ~段階的に習得できる運動の場・技を安定してできるようにする場を作る~</p> <p>開脚前転 開脚後転 側方倒立回</p>			
中学校	第1学年	期	<p>基本的な回転系や巧技系の技を滑らかに行うことができる。条件を加えた技や発展技を組み合わせることができる。(発展)</p> <p>跳び前転 倒立前転 伸膝前転 側方倒立回転跳び1/4ひねり 頭倒立 倒立</p>	<p>積極的に取り組む、互いを認め合う。 分担した役割を果たす。 安全に気を配る。</p>	<p>課題に応じた取り組み方を工夫する。</p>	<p>柔軟度チェックを行い柔軟性を高める運動を毎時間行う(体力テストの結果を参考にする) 小学校からの引き継ぎ(技の進度)を単元に計画を行う。 校内にて共通理解を図り、学習カードに記入内容を精査する。 基本的な技はより美しく、基本的な技を基に発展的な技へと進み、技ができる楽しさや喜びを</p>
	第2学年		<p>【指導の工夫】 恐怖心をなくす → 起こりうる怪我について説明、怪我の回避の方法 学習カードの活用 → 自分の課題、課題解決の為の工夫を記録し、意識を高める 資料の活用 → 実技動画の活用、連続図を拡大し、視覚的に情報を取り入れる</p>			
	第3学年		<p>第3学年においては、器械運動の領域は、器械運動、陸上競技、水泳及びダンスのまとまりの中から1領域以上を選択</p>			

課題改善カリキュラム【総合的な学習】 考えをまとめる方法の習得と、活用の力を育てる7年間

		単元の内容		指導の工夫（活用する思考ツール）	カリキュラム改善の視点	
		学習課題	学習対象	学習事項		
期	小学3年	地域	地域巡り、地域の施設、農業	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域巡りをして、環境のよさや安全・危険なところを知る。</li> <li>地域の今と昔を知る。</li> <li>地域の農業、施設とのかかわりから、自分は周りに支えられていることに気付く。</li> </ul>	ベン図	地域について調べたこと、体験して分かったことや思ったことから比較してとらえられるようにする。 例えば、地域の今と昔について、調べたことを比較したり、共通する部分を考えたりすることで、さらに深めて発表できるようにする。
	4年	福祉	点字・手話・車いす	<ul style="list-style-type: none"> <li>アイマスク、点字、手話、車いす等の体験から福祉への意識を高める。</li> <li>福祉の観点で、校内や地域を調査する。</li> <li>自分にできることは何か発信する。</li> </ul>	Yチャート	福祉について調べたことや体験したこと、話を聞いたことから分類してとらえられるようにする。 箇条書きにまとめたものを3つの観点（例えば、公共の建物・家・道具）で分類する。分類して分かったことや気づいたことをさらに深め、自分にできることを発信できるようにする。
期	5年	都市農業	地域の農業と地域で農業に携わる人々、関係機関	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の農業や生産者の現状</li> <li>自分たちが住んでいる地域に畑があることよ</li> <li>練馬区の農業のよさを大切にしていこうとする取り組み</li> </ul>	クラゲチャート	一つの問いや事象に対して、複数の根拠を示す構造となっている。根拠が一つではなく複数あること、根拠同士にも何らかの関連があるのではないかと視覚的にとらえる。この思考ツールは、複数の視点をもつ。それぞれの視点から言えることを検討する。結果を統合して意見を作る。という手順になる。
	6年	自分（キャリア）	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近にいる働く人々や様々な機関</li> <li>自分自身（自分のよさ・現在の自分・将来への展望）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近にいる働く人々と働くことの意味</li> <li>地域や社会を支える様々な職業や機関</li> <li>現在の自分自身への気付きと将来への展望</li> </ul>	ピラミッドチャート	話を聞いたり文章を読んだりするときに、重要な部分を見つけてそれを落とさないように整理することが求められる。この思考ツールは、中心となっているテーマに当たりを付ける。テーマとそれ以外の部分の関係を意識する。テーマをはずさないよう意見を作る。という手順になる。
	中学1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分たちが住む地域（調べ学習）</li> <li>計画的行動（校外学習）</li> <li>自己理解・身近な人の生き方（進路学習）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が住む地域のこと（練馬区内）</li> <li>東京下町の歴史・文化など</li> <li>自分自身・地域の身近な人（親、親戚、成人の友人など）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>練馬区の農産業、交通、地理、風土など</li> <li>テーマの設定、調査事項の設定、疑問点の確認、見学コースの設定</li> <li>自分自身の現状把握と社会に在る職業の調査</li> </ul>	ピラミッドチャート	思考ツールは、小学校高学年と同様のものを、同様の進め方で活用する。 下から、「小学校」「中学校」「上級学校（高等学校、専門学校、大学など）以降」という段階に分け、現在の自分自身から、自分自身が興味を持った仕事に就くまでの道のりに、見通しを持たせるようにする。
期	2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報収集・集約（校外学習）</li> <li>進路への見通しをもつ（進路学習）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域で協力して頂ける事業所（練馬区内）</li> <li>地球環境</li> <li>自分自身・友人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>働くことについて、正しい言葉遣い・マナーの習得。</li> <li>興味を持ったテーマに対する調べ学習。</li> <li>テーマの設定、調査事項の設定、疑問点の確認、見学コースの設定</li> <li>中学校卒業まで視野に入れた自身の進路を考える。</li> </ul>	ピラミッドチャート（立体） 2方向の視点で、より具体的に考えを深められるようにする。	職場体験では、実際に働くことで、社会において自身の能力を生かし、貢献していくことを経験させ、1年生の時に調べたことと重ね合わせ、より具体的にこれからの生き方について考えを深めさせる。 また、思考ツールは、これまで使用してきたピラミッドチャートにさらにもう一つの視点を追加させることで、より具体的に深めさせるようにする。
	3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路学習（進路計画作成）</li> <li>自国文化学習（修学旅行）</li> <li>進路学習（自己PR作成）</li> <li>裁判員制度の学習（模擬裁判）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分自身</li> <li>留学生</li> <li>東京弁護士会法教育センター</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中学校卒業後の具体的な進路についての目標を定め、それに向けて見通しを持って計画を立てる。</li> <li>自国の文化・伝統工芸・芸術・仏閣寺院について、興味を持ったテーマに対する調べ学習とフィールドワーク（修学旅行）</li> <li>自己理解を深め、様々な進路選択と上級学校の特色について触れる。</li> <li>裁判員制度について学び、将来に役立たせる。</li> </ul>	スターチャート 進路に向けて、複数の選択肢から自分自身の進路により近づけさせると共に最終的な進路決定の見通しを立てるようにする。	これまでの学習を踏まえて、様々な視点から自他を見つめられるようにする。 進路学習では、これまでの学習を通して得られた自己理解と、日本の社会的背景を踏まえた進路を選択できるようにする。

